

## X II. 門司港レトロ地区環境整備

### X II - 1. 事業概要

#### (1) 事業概要

門司港レトロ地区環境整備の事業概要は以下のとおりである。

表 事業概要

■事業名	門司港レトロ地区環境整備
■事業分野	港湾
■事業の種類	新規事業
■賞の受賞	2001年デザイン賞
■特に参考となる効果	利用形態・頻度等の変化 商業活動の活性化・変化 地域活動の活性化 周辺景観の改善
■事業対象・規模	対象：北九州港門司港区第一船だまり(福岡県北九州市) 規模：約 8.3ha
■事業主体	北九州市
■周辺の関連事業	西海岸整備、北九州市都市景観条例、関門景観条例
■景観検討の段階	計画・設計・施工
■PIの有無	なし
■事業期間・竣工	平成元年より事業開始 平成5年：歩行者専用橋（ブルーウィングもじ）、橋詰公園完成 平成6年：港湾緑地の休憩場所として旧門司税関の保存修復完了、門司港駅舎前の「レトロ広場」竣工、国際友好記念図書館の前庭広場「文化広場」竣工、旧門司三井倶楽部移設に伴う外構の再生 平成7年：再開発建物の外構と連携船溜り側ボードウォーク着工 平成8年：再開発ビル着工
■事業概要	九州北端の門司港は、かつては大陸との貿易、関門連絡船のターミナルとして、我が国有数の商業港であった。しかし、戦後、大陸貿易の途絶、連絡船の廃止等で、町は急激に衰退していった。そこで、北九州市は1989(平成元)年より門司港再生を目指し「ふるさと創生事業」「歴史的港湾環境創造事業」等による、環境整備に着手。これまでに歴史的建造物の修復、広場・街路・緑地等の整備等の公共空間の整備事業を行った。「門司港レトロ」はこれらの事業の総称である。「門司港レトロ」は比較的広い区域を対象地域としながら、既に10数年に及ぶ時間をかけ、設計者・行政関係者・地元市民が緊張ある関係の中で進められた。

## (2) 事業対象位置図

設計対象となった施設は、北九州港門司港区の通称門司港の発祥の地である第一船だまりを取り巻く地域である。この船だまりの回りには、かつては大陸との貿易、関門連絡船のターミナルとして、我が国有数の商業港であったときに建設された歴史的な建築等が残されており、これらを結ぶように港湾緑地、歩行者プロムナード、広場、可動式歩行者専用橋、駐車場等を整備している。



図 事例対象位置図

### (3) 整備の経過

#### ①門司港レトロ地区環境整備の経緯

九州北端の門司港はかつては大陸との貿易、関門連絡船のターミナルとして、我が国  
有数の商業港であった。戦後、大陸貿易の途絶、連絡船の廃止などで、町の様相は大き  
く変貌していった。

北九州市は平成元年より門司港再生を目指し「ふるさと創生事業」、「歴史的港湾環境  
創造事業」等による環境整備に着手した。従来、歴史的建造物等の保存に手をこまねい  
ていた市は、これらの事業の適用による建物の買収・保存を進め、埋め立てられる計画  
であった古い船だまりを残し、この船だまり周辺を賑わい、憩いの空間として再開発を  
行った。観光地としての歩行者経路等の整備を図るため先行して、歴史的建造物の修復、  
広場・街路・緑地等の整備などの公共事業が進められ、民間再開発を誘導することで、  
地域の再生を狙ったものである。

#### ②門司港レトロ地区環境整備の内容

1988年より始められた門司港レトロ地区全体の景観設計は、市の港湾局、建設局、建  
築局、経済局等、いくつかの発注部門に跨った横断的な事業であり、かつ長期に亘る事  
業であったが、これらを結果として1人のデザイナーになんらかのかかわりを持たせる  
ことで、計画の一貫性、責任の所在の明確な全体の空間が形成された。



写真 門司港レトロ地区環境整備の航空写真

	事業名	担当部局
ウオーターフロント 公園・はね橋	1 緑地A	港湾局
	2 緑地B	〃
	3 緑地C	〃
	4 緑地D	〃
	5 緑地E	〃
	6 はね橋	〃
	7 ボードウォーク	〃
	8 臨港道路	〃
	9 物揚場	〃
	10 海峡ビル跡地	〃
街路・広場	11 レトロ広場	建設局
	12 文化広場	〃
	13 旧門司三井倶楽部外構	〃
	14 レトロプロムナード(東港町5号線東)	〃
	15 レトロプロムナード(浜町東港町1号線)	〃
	16 レトロプロムナード(浜町2号線)	〃
	17 レトロプロムナード(東港町1.5号線西)	〃
	18 レトロプロムナード(港町3号線)	〃
	19 レトロプロムナード(港町4号線)	〃
	20 レトロプロムナード(港町7号線)	〃
	21 レトロプロムナード(港町1号線)	〃
	22 大正ロマン通り(港町2.5号線)	〃
	23 帆船通り(東港町2号線)	〃
	24 レトロ駐車場	〃
	25 国道3号清滝簡易パーキング緑地	〃
建築・その他	26 門司港駅前広場駐輪場	建築局
	27 はね橋操作室	港湾局
	28 旧門司税関保存修復	〃/建設局
	29 レトロ駐車場管理棟	建築局
	30 レトロ駐車場公衆便所	〃
	31 サイン計画	経済局

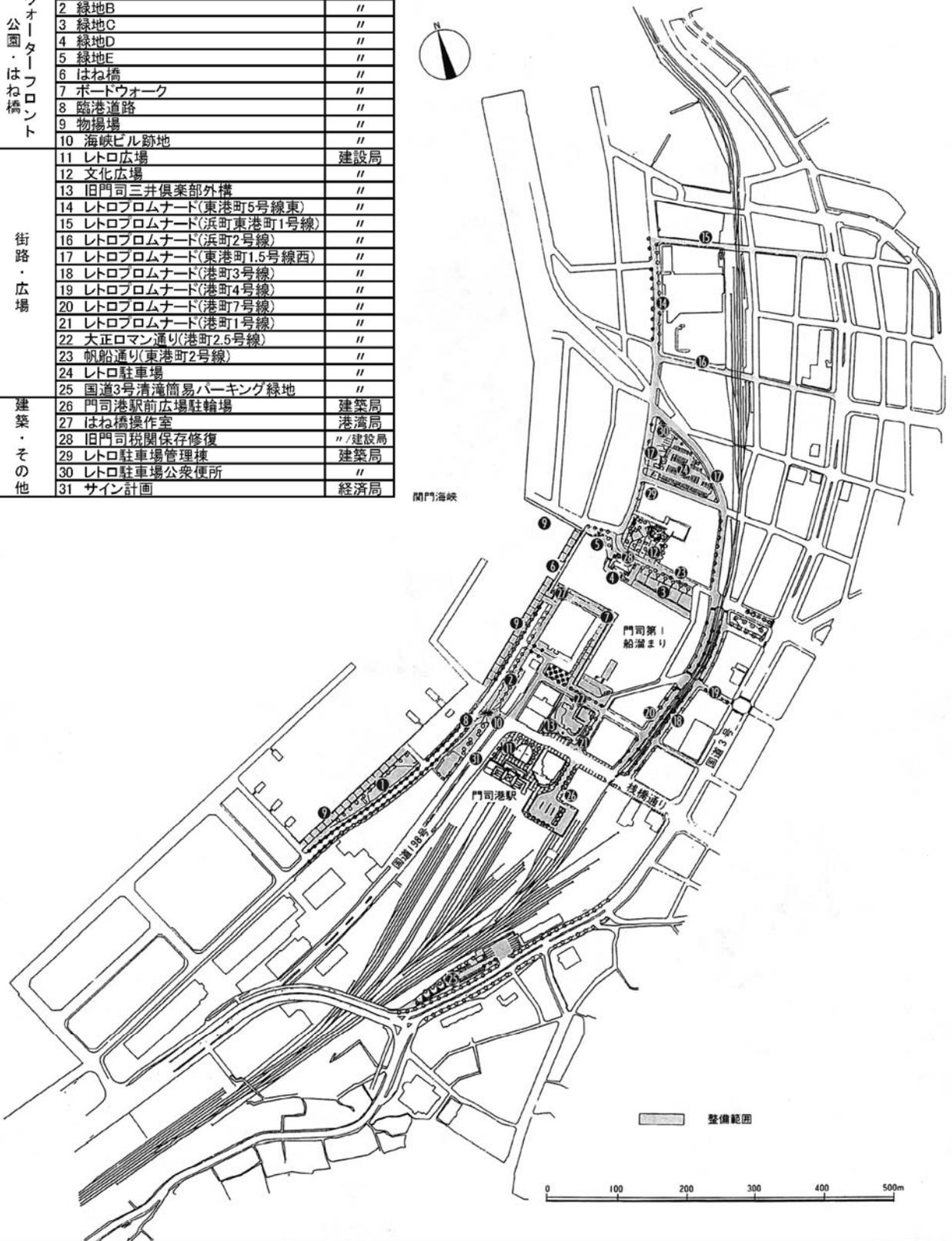
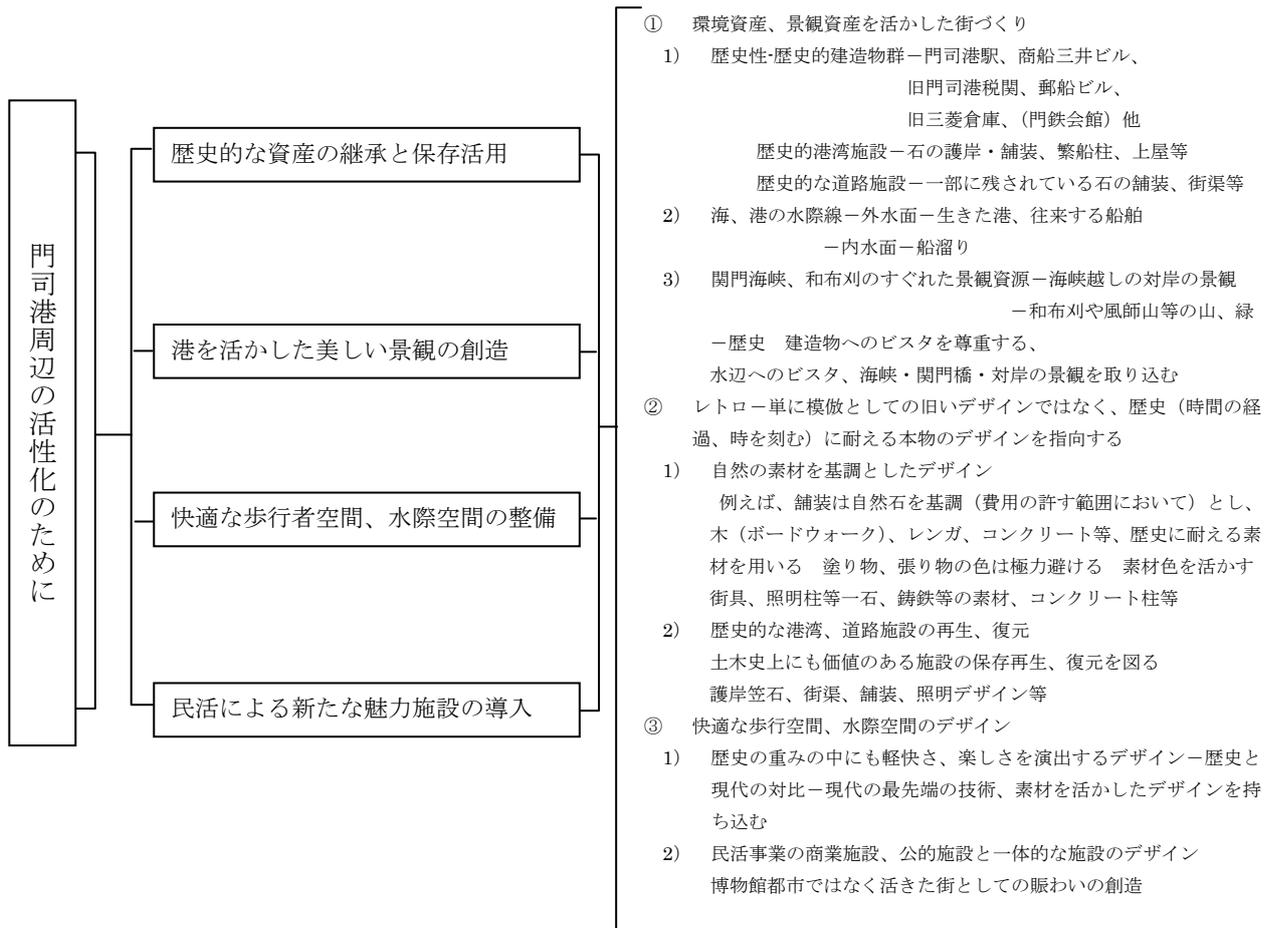


図 門司港レトロ地区環境整備の内容

### ③公共空間の整備の視点

門司港レトロ地区の公共空間整備の目標は、民間も含めたトータルなまちづくりの誘導であり、門司港の魅力づくりに貢献することを主眼にし、公共空間整備の基本方針を以下のように定められている。

具体的には、官民一体でまちづくりを進めていくために、その第一段階として公共施設の整備があり、歴史的な建造物の保存修復、公共空間の環境整備による歩行者の回遊性の確保を行い、これらを受けて、民間再開発を誘導することが狙いとして挙げられている。



(「門司港レトロ地区設計基本デザイン計画報告書」)

図 公共空間整備の基本方針

### ④歴史的港湾の船だまり周辺の整備内容

この計画の特徴的な点は、船だまりを残したことに加え、水際線に車両を入れず、歩行者専用のはね橋を設けることで、船だまりの港湾としての機能も残しつつ、歩行者の回遊性を高めた点である。

遊休化していた船だまりは一部を残し埋め立てられ、周辺地域の再開発の種地や緑地として活用する計画にあった。しかし、船だまりは、明治初期に築造された門司港発祥の地とも言うべき歴史的港湾施設であり、都心部に位置し駅に近接し、周辺に歴史的な水面を活かすことで民間再開発が促進されるとの考えのもと、水域を残し、水域を中心

に賑わいを形成するべく、法定計画である港湾計画を変更した。都心部に残された船だまりは、港と都市の接点にあり、港町の記憶を継承している古き門司の面影を偲ばせる骨格となった。

従前の港湾計画は、船だまりの埋め立てにより、関門海峡と船だまりの間に関門海峡の水際線に沿って臨港道路を建設する計画であったが、この計画も船だまりを残す計画にあわせて変更し、船だまりの手前で臨港道路を行き止まりとし、歩行者専用のはね橋（ブルーウイングもじ）を架けることにより、歩行者の回遊性を確保しつつ、船だまりと関門海峡の船舶の行き来を可能とし、船だまりを活きた港湾施設として活用することを実現している。

変更前の計画は、船だまりの大半は埋め立てられ、池状の水域に動かない帆船が係留される計画であった。この計画変更を可能としたのは、海岸部を通る国道 198 号と鉄道敷を挟んで内陸を通る国道 3 号を繋ぐ鉄道跨線橋により計画地を迂回させる車両動線を確保した広域の交通計画の効果が大きい。



写真 ブルーウイングもじ



写真 船だまり周辺の商業施設

#### ⑤ 駅前広場の整備の内容

門司港の玄関ともいえる門司港駅前には、駅前広場を歩行者広場（レトロ広場）として整備し、建物の移設を行うことで、レトロ広場からの関門海峡や関門大橋への視線を確保している。

門司港駅に降り立つと自然と関門海峡方面に視線が誘導され、ビルとビルの間から関門海峡や関門大橋を眺めることができる。視線に沿って歩けば、関門海峡に自然にアク

セスできる。従前、このビルの間にはビルが1棟建っており、隙間はほんのわずかであった。門司港駅に降り立ってもビル群が視線を遮り関門海峡も関門大橋も眺めることはできなかった。この視線を遮蔽していた建物を移設することで視線を確保し、併せて、視線を誘導するように駅前広場のデザインを工夫している。また、跡地を港湾緑地とすることで駅前から無理なく関門海峡に出ることができ、かつ、渡船等海からの来訪者にとっても街への導入空間として機能している。

加えて、門司港の優れた点は、その駅前広場が車優先の交通広場でなく歩行者広場（レトロ広場）とした計画と、国指定重要文化財である駅舎を引き立てるシンプルで、かつ多様な活動を誘発させることを想定したデザインといえる。門司港駅の駅舎が国指定重要文化財であり、その形式が国内では珍しい終着駅形式であることから、元々、海を意識した立地であり、その駅舎正面の広場を歩行者広場とし、交通広場を裏側に設けることで、駅舎、歩行者広場、港湾緑地、関門海峡と繋がる海に開かれた空間が形成された。



写真 門司港駅前レトロ広場

門司港レトロ関連概算事業費

事業内容	事業費	備考
門司港レトロめぐり海峡めぐり推進事業	93.0 億円	
歴史的建造物活用事業	43.0 億円	
旧門司三井倶楽部移築保存	32.0 億円	
旧大阪商船保存活用	11.0 億円	
レトロめぐり事業	19.5 億円	
電線地中化	4.5 億円	
大正ロマン通り整備	1.5 億円	
レトロプロムナード整備	9.0 億円	
帆船通り整備	4.5 億円	
海峡めぐり事業	9.0 億円	
第二展望台テラスデッキ整備		
源平合戦陶板壁画設置		
駐車場整備		
和布刈公園回遊路整備		
その他広場整備		
観光施設等整備事業	21.5 億円	
門司港駅前レトロ広場整備(新交通広場合む)	18.0 億円	
文化広場整備	3.3 億円	
観光施設等案内板整備	0.2 億円	
大連歴史的建造物建設事業	13.0 億円	北九州市立国際友好記念図書館
西海岸地区再開発事業	130.0 億円	
旧門司税関改修事業	12.0 億円	
はね橋建設事業	6.5 億円	
親水護岸整備事業	1.5 億円	
港湾緑地等整備事業(護岸、芝生緑地等)	110.0 億円	
都市計画道路整備事業	45.0 億円	清滝西海岸線(バイパス)
レトロ業務ビル建設事業	14.0 億円	Port Moji 壱番館
関連事業費合計	295.0 億円	—

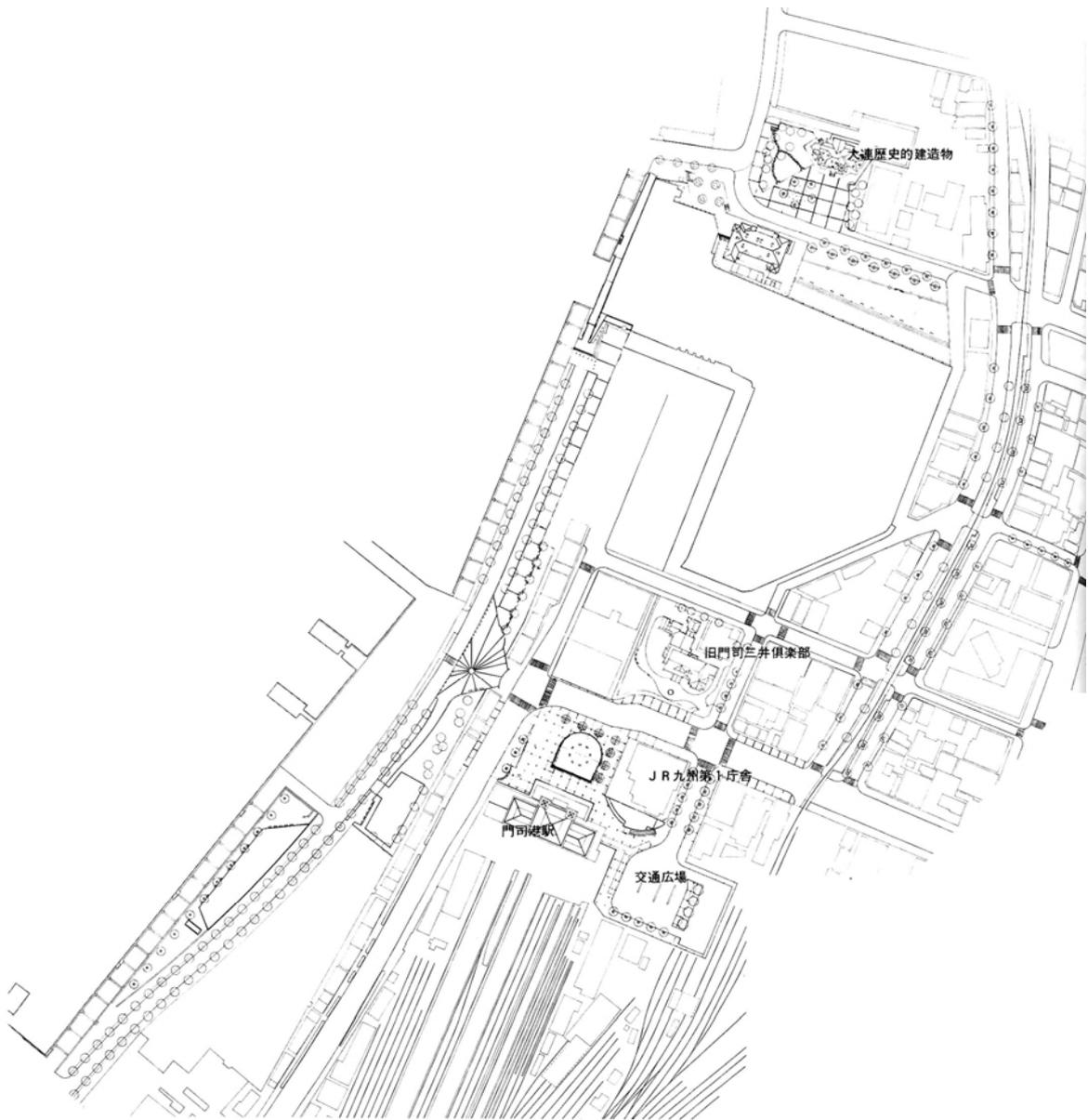
資料：北九州市産業経済局門司港レトロ室資料

門司港レトロ事業における施設整備の推移

年 度	市事業	民間等事業
H3	3月 ウォーターフロント・プロムナード " 第1船溜まり「親水護岸広場」 " 和布刈公園第二展望台テラスデッキ	
H4	11月 西海岸緑地 3月 めかり回遊路(和布刈公園)	
H5	5月 大正ロマン通り " レトロプロムナード 6月 レトロ広場(門司港駅前広場) 10月 跳ね橋「ブルーウイングもじ」	
H6	4月 旧大阪商船(修復) 12月 旧門司税関(修復) " 旧門司三井倶楽部(移築管理) " 国際友好記念図書館 3月 門司港レトロランドオープン(3/25) 旧門司三井倶楽部、旧門司税関 国際友好記念図書館、旧大阪商船	12月 門司電気通信レトロ館
H7	7月 「清滝西海岸線」(バイパス)	・レストラン三井倶楽部
H8		・あかしあ(国際友好記念図書館内) ・レトロカフェ(旧門司税関内)
H9	4月 マリンゲートもじ	・レトロひまわり館 ・レストラン「バルク」 3月 門司港ホテル
H10	7月 門司港レトロ観光物産館 10月 門司港休憩所	・高速船「シーマックス」就航 ・門司港レトロ地ビール工房 3月 海峡プラザ
H11	4月 門司港レトロ展望室	4月 ドリンクコーナー「ル・シエル」 (門司港レトロ展望室内)
H12		4月 出光美術館(門司) 3月 新浜臨時駐車場(暫定)整備(観光協会)
H13	7月 夜間景観整備	11月 ロブスターダイニング
H14	4月 門司港アート村 10月 わたせせいぞうと海のギャラリー 11月 多目的広場(暫定整備)	
H15	4月 海峡ドラマシップ " 港町4号線整備 11月 サイクリングロード・遊歩道(一部暫定供用) " 大型バス専用駐車場(隆文堂跡地)	4月 港町4号線商業施設(海人) 4月 センターリバー 8月 九州鉄道記念館 11月 JOINT 門司港レトロ
H16	6月 サイクリングロード・遊歩道供用開始 10月 門司港レトロ駐車場供用開始	5月 門司港アート村ギャラリー 「港のマチエール」

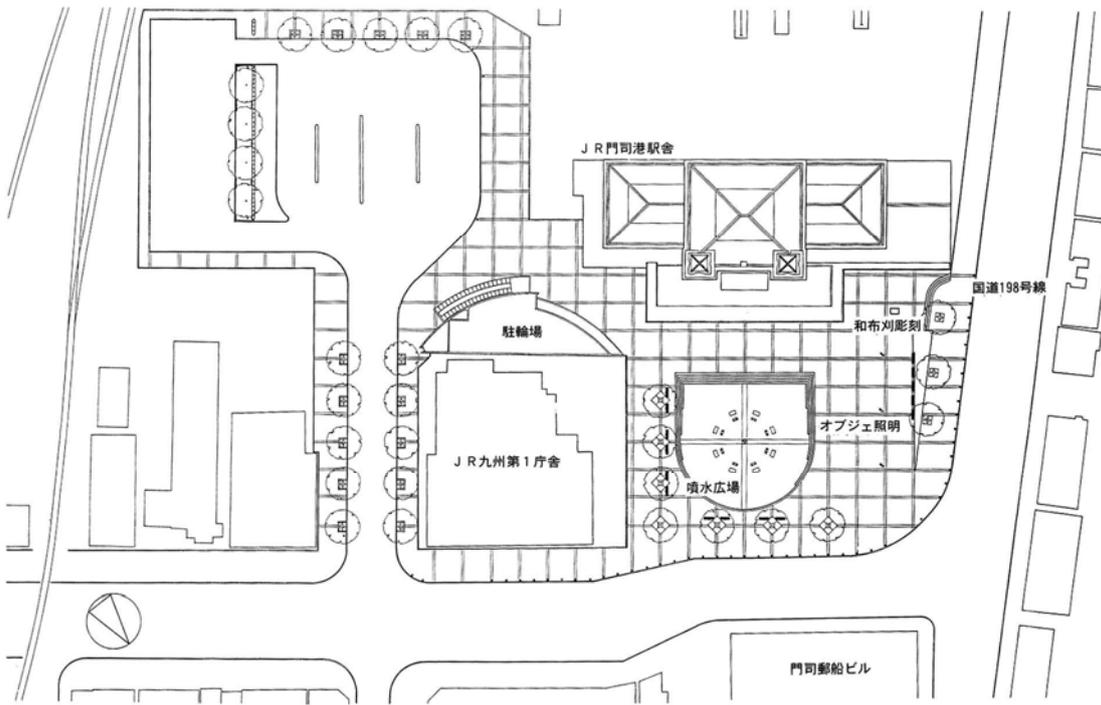
資料：北九州市産業経済局門司港レトロ室資料

- (4) 設計図面
- 1) 設計図面

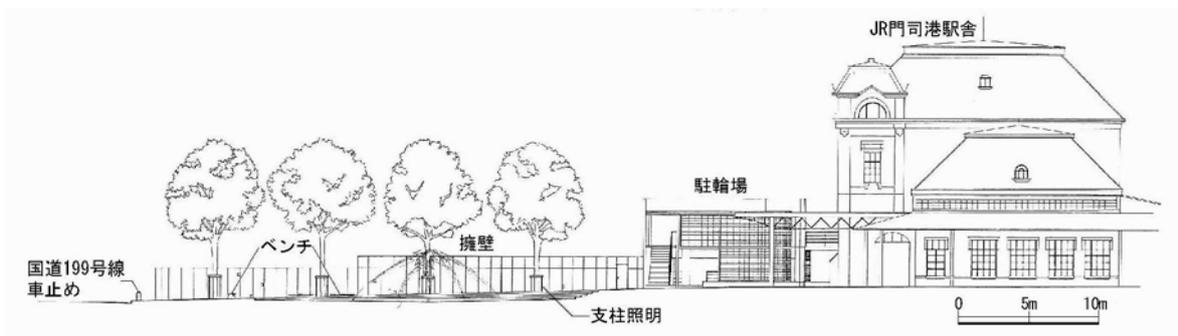


全体平面図





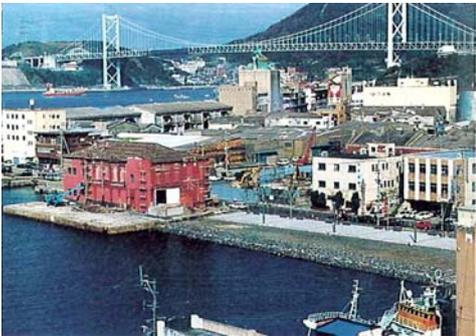
レトロ広場平面図



レトロ広場立面図

2) 整備前後の写真

整備前	整備後
<p data-bbox="459 398 576 434">門司港駅</p> 	<p data-bbox="1050 398 1166 434">門司港駅</p> 
<p data-bbox="459 779 596 815">門司港駅前</p> 	<p data-bbox="1050 779 1187 815">門司港駅前</p> 
<p data-bbox="403 1245 646 1281">門司港第1船だまり</p> 	<p data-bbox="994 1245 1236 1281">門司港第1船だまり</p> 
<p data-bbox="256 1626 799 1662">国際友好記念図書館横から旧門司税関を望む</p> 	<p data-bbox="839 1626 1382 1662">国際友好記念図書館横から旧門司税関を望む</p> 

整備前	整備後
<p data-bbox="379 338 675 371">船だまり側の旧門司税関</p> 	<p data-bbox="962 338 1257 371">船だまり側の旧門司税関</p> 
<p data-bbox="443 748 611 781">親水護岸周辺</p> 	<p data-bbox="1026 748 1193 781">親水護岸周辺</p> 
<p data-bbox="355 1158 667 1191">門司港駅前「レトロ広場」</p> 	<p data-bbox="962 1158 1273 1191">門司港駅前「レトロ広場」</p> 

出典：北九州市、財団法人北九州都市協会、「海峡の街 門司港レトロ物語」、平成8年3月

## XII. 計画・設計の意図および期待される効果

### (1) 計画・設計の意図

文献調査、設計者ヒアリング、事業者ヒアリングより、当該施設の整備の方針は、大きく4つに整理される。以下に、各方針に対する計画・設計の考え方と内容をまとめる。

#### 1) 歴史的資源・景観資源等の既存資源の活用

かつての大陸との貿易、関門連絡船のターミナルとして、我が国有数の商業港であった往時の歴史的建造物等の資源を保存再生・復元するなど、顕在化している資源を活用することは勿論、加えて、関門海峡等の自然資源、市街地に近接した水面等をまちづくりに取り込むといった活用が図られている。

これらの要請や条件に対し工夫された考え方として、以下のものがあげられる。

#### 1. 歴史的な建造物の保存再生



2. 関門海峡等の自然資源の取り込み



## 2) 親水空間・水際の賑わいの創出

船だまりを存続させたことから、新たな親水空間を創出し、この船だまりを活用した水際の賑わい空間を形成するため、水面を見通せるシンプルな柵等の工夫や、潮位差を活かした親水公園による景観演出を行い、さらに、内陸側においても、広場や緑地におけるレベル差の形成を図っている。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

### 1. 船だまりの存続



### 2. 水面を見通せるシンプルな柵と照明柱



### 3.潮位差を活かした親水公園



### 4.レベル差による演出と視線の確保



### 3) 快適な歩行空間の創出・回遊性の向上

快適な歩行空間を創出し、回遊性を向上させるために、歩行空間に併せた海やまちへの視線、アクセスの確保を図り、船だまり出入りに跳ね橋を設けることで、周遊を可能とする導線を確保した。また、歩行者プロムナードや道路空間とメリハリのある空間デザインを演出している。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

#### 1.海やまちへの視線、アクセスの確保



#### 2.跳ね橋による回遊性の確保



### 3.メリハリのあるデザイン



#### 4) 市民参加等のソフトとの連動

イベント等の開催を想定したスペースを提供することで、市民の参加を促す等、各種の利用に対応できるソフトと連動したデザインを行っている。

これらに関する設計意図として、以下のものがあげられる。

##### 1.広場でのイベント



##### 2.パラソルやベンチの設置



## (2) 期待される効果

### 1) 設計意図と期待した効果のまとめ

文献調査と設計者ヒアリング、事業者ヒアリングによる計画・設計意図と期待される効果の対応は以下のようにまとめられる。

表 設計意図と期待した効果のまとめ

設計意図	景観に配慮した内容	期待される効果
1 歴史的資源・景観資源等の既存資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史的な施設の保存再生・復元</li> <li>○関門海峡等の自然景観、歴史的建築物やその前面水域の景観の取り込み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用形態・頻度等の変化</li> <li>●観光地としての価値の向上、商業活動の変化</li> <li>●樹木の手入れ、花壇等の設置</li> <li>●清掃等の維持管理活動の活発化</li> <li>●周辺景観の改善、建物ファサードの変化、軒先空間の変化、周辺商業施設の連帯性の向上</li> <li>●地域住民の地区景観に対する意識向上</li> </ul>
2 親水空間・水際の賑わいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○船だまりの存続、緑地の整備</li> <li>○船だまり側におけるシンプルな铸铁柵や、親水広場のスリットを設けた護岸擁壁の設置</li> <li>○親水公園における潮位差を活用した景観演出</li> <li>○広場・緑地におけるレベル差の形成、水際のシークエンス景観の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用形態・頻度等の変化、地域活動(イベント・行事)の活性化、近隣住民同士の会話の場の創出</li> <li>●親水性の向上</li> <li>●水面の活用による民間開発の促進、商業活動の活性化・変化</li> <li>●視点場の形成</li> <li>●非日常を感じられる空間としての利用</li> </ul>
3 快適な歩行空間の創出・回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○海や街への視線・アクセスの確保</li> <li>○船だまりの出入り口にはね橋を設置</li> <li>○歩行者プロムナードを整備、一体感のある道路空間の整備、メリハリのある空間デザインの演出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用形態・頻度等の変化</li> <li>●観光地としての価値の向上、商業活動の活性化・変化</li> <li>●視点場の形成</li> </ul>
4 市民参画等のソフトとの連動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○門司港駅前の多目的広場の整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用形態・頻度等の変化、商業活動の活性化・変化</li> <li>●地域活動(イベント・行事)の活性化、清掃等の維持管理活動の活発化</li> </ul>

## 2) 期待される効果の発現段階における整理

上記期待する効果について、効果の発現段階の「意識変化」、「活動変化」、「空間変化」において以下のような効果が想定される。

表 発現段階ごとの効果の整理

期待する効果	意識変化	活動変化	空間変化
●歴史資源、景観資源等の健在化	○観光地としての意識の向上 ○歴史あるまちへの愛着、親しみの増加	○観光ボランティアへの参加 ○歴史めぐり等への参加	○商業施設の立地
●親水空間・水際の賑わいの創出	○水際のまち、海峡のまち、港まちとしての誇り、親しみの増加	○ショッピングなどの目的地までの通り道／通勤・通学路／散歩・ジョギング・ウォーキング／写真撮影・スケッチ／休憩／周りの景色を眺める等の様々な利用の創出	○水辺等を使ったオープンカフェの設置
●快適な歩行空間の創出と回遊性の向上	○水際のまち、海峡のまち、港まちとしての誇り、親しみの増加	○ショッピングなどの目的地までの通り道／通勤・通学路／散歩・ジョギング・ウォーキング／写真撮影・スケッチ／休憩／周りの景色を眺める等の様々な利用の創出	○花壇等の設置
●市民参画等のソフトとの連動	○わが町としての愛着の増加	○イベントの開催、参加周りの景色を眺める利用の創出 ○清掃活動の活発化 ○イベント運営組織の設立(門司港レトロ倶楽部) ○地域情報誌の発行(レトロタイムズ)	

これを踏まえ、各段階における効果の把握について調査を実施した。